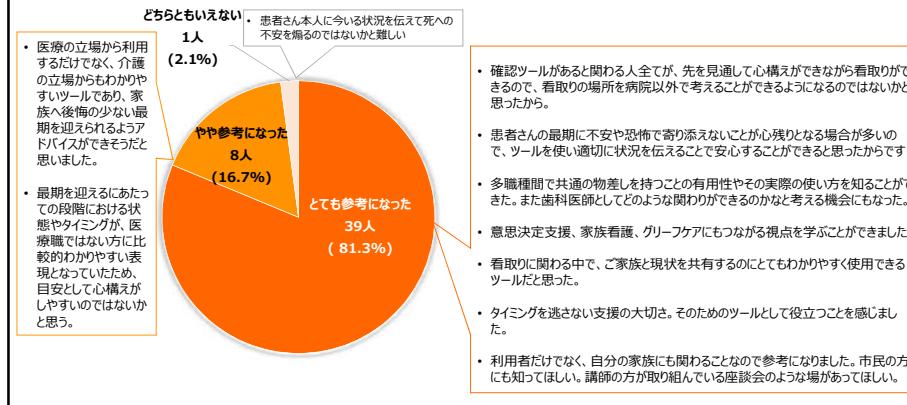
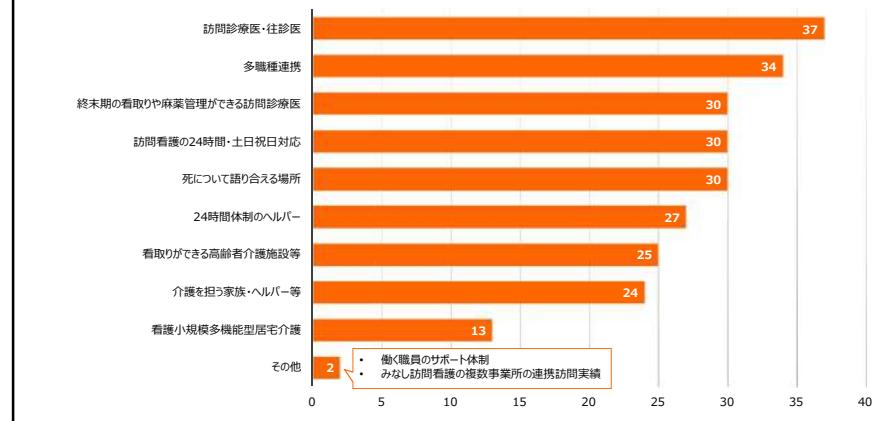


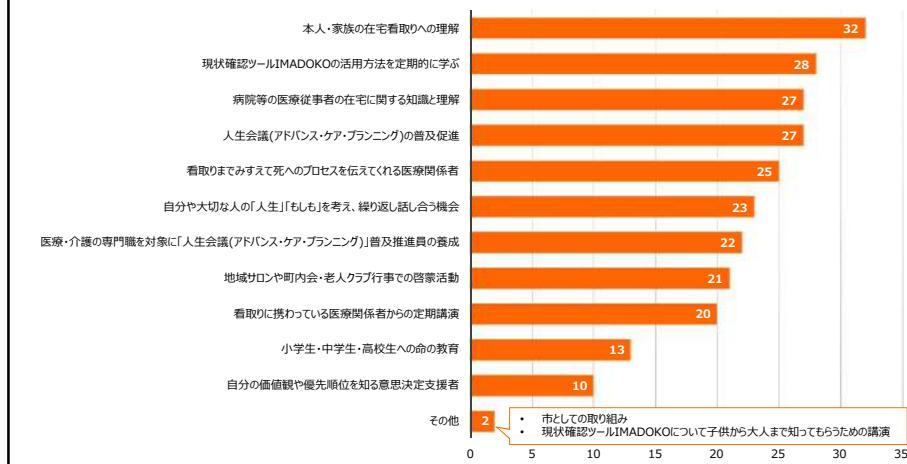
問8 「『現状確認ツールIMADOKO』を活用した多職種連携～多職種に求められる視点～は参考になりましたか。
問9 問8的回答を選択した理由について具体的に教えてください。



問10 「看取り文化を苫小牧ではぐくむ」ために必要と思うものを教えてください。(ハード面) (複数回答可)



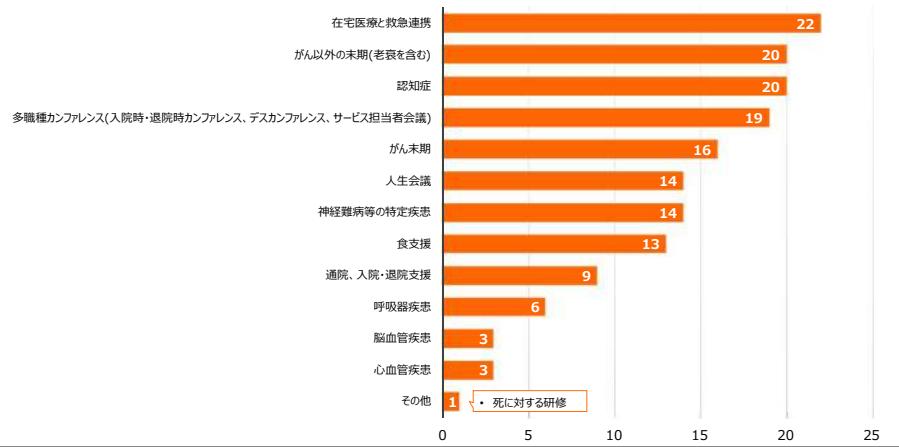
問11 「看取り文化を苫小牧ではぐくむ」ために必要と思うものを教えてください。(ソフト面) (複数回答可)



問12 「看取り文化を苫小牧ではぐくむ」ためにご自身は何が出来ると思いますか。

- 市内で語り合う場があれば積極的に参加し、自分の得意を広げて連携を図ります。
- 本人・家族が困ることの相談もしやすい環境(地域包括・都市計画・友人・医療・福祉他)
- 在宅での看取りについての知識や多職種の方と情報交換が大切で協力しあうことができる状況をつくりたいこと。事例を発表していく場などがあつても良いかと思いました。
- 高齢者一人一人、経年とともに情報を交換していくのが良いのか。
- FMしまなみい企画・連絡を提案していいかがですか?
- 看取り文化を身近なことに及ぼす活動について
- アライバーの協力体制を整えたい
- IMADOKOの伝えたいこと
- 訪問してみたいと思われる利用者さんに話を聞く事からはじめると良い
- 日々の業務の中で、利用者さんの意向を確認しながら支援していくこと
- 自分がすべて行なうことは、利用者・家族と今後どうしたいのか皆さん考え、意向・気持ちを聞いていきたいと思います。
- 本人・家族に対する尊重
- 本人や家族の思いし寄り添い、希望するサービスや必要と思われるサービスにつなぐこと。
- 患者・家族への説明と在宅医に伝げること
- 自宅で最期を迎える人の家族指導
- 訪問して地元と連携しながら多職種で関われるようにアプローチしていきたい。
- 訪問看護の立場で看取りをされる知識やスキルを身につける
- ケアマネジャーの立場から多職種連携の経験を行なう事。看取りについての情報をご利用者、ご家族様へ説明し、理解していただくこと
- 院内に在宅の必要性や現状理解を広める
- ソーシャルワーカーの面接で使用する
- 乗換えられないように患者さんの気持ちを大切にした服薬管理
- 自社でケアについて語り合ったり組み込みます。書き書きなど自社の取り組み、他のケア者のケアや取り組みについても聞いていきたいです。
- 学習会への参加や経験を積み、得難い事を行なう等。
- 研修での学習スキルアップ実践、啓蒙活動
- 専門職としての限り、また関わるスタッフをどう育成するのかを考えていく。
- 医療機関同士による情報共有
- 私の職種の関係上、看取りの現場での知識や経験がありません。このような勉強会を通じて、まずは知識やリアルな現場での雰囲気にならしていく必要があります。
- 食べるところを支えることができると思ふ。
- 苫小牧市と連携を図って、わが妹背牛町で看取り文化に取り組みたい。
- 訪問診療の拡大

問13 今後、多職種学習会で取り上げて欲しい事例はありますか。（複数回答可）



問14 その他、多職種学習会についてのご意見ご質問があればご記入ください。

- グループワークなどで、学習会に参加された職種などお互いに紹介できるより連携が図りやすいと思いました。
- 伊賀先生の進行はいつも穏やかな気持ちになります
- 看取りができる在宅医と24時間巡回のヘルパー、看取りができるナーシングホーム、ホスピス型の施設が苦小牧にも欲しいです
- 大井先生のIMADOKOツールについて講演は本当に勉強になりました。ありがとうございます。
- 勉強になりました。ありがとうございます